

訪問しない形で施設へのボランティア活動を展開！

日向学院高等学校

日向学院では、近くにあるカリタスの園の老人ホーム「松の寮」や乳児院「つぼみの寮」に訪問に行くボランティアを続けてきましたが、このコロナ禍にあってそれがかなわなくなってしまいました。そこで、学校内でできることで、これらの施設をサポートすることができないか、生徒が話し合いを行って検討し、実際に行動に移すことになりました。

実際の活動内容は以下の4つです。

- つぼみの寮から依頼されたネームタグ取り
つぼみの寮では年度が変わると子供服も持ち主が変わっていきます。たくさんある子供たちの服から名前の書かれている小さい布を取るのは大変な作業ですが、それをこちらで行いました。大人数でかかるとものの1時間ほどで終わることができました。
- 松の寮のための季節の飾り
コロナ禍でほとんど外に出られない利用者の皆さんのために、少しでも季節感を味わってもらえないかと、ちょっとした飾りを作ることにしました。7月は七夕にちなんだもの、8月は砂浜でのスイカ割りを描いたものを作り、持って行きました。
- 松の寮で使う布切り
松の寮では、古着を切って体を拭くための布を作っています。その作業を本校のボランティアが行い、地道な作業ではありますが続けています。日常的に使うものなので継続的な取り組みが求められますが、生徒たちは作業日によって当番を決め、勉強や部活動の合間を縫ってよく頑張っています。
- 雑巾作り
つぼみの寮や松の寮で使ってもらおうと、不要なタオルを提供してもらい、雑巾を作りました。はじめはミシンの扱いにも慣れなかった生徒たちも、枚数をこなすに従いどんどんと作れるようになっていきました。

(参加者された方等の声)

- 今日のボランティア活動は一昨日に引き続き洋服を切っていく作業でした。
とても単調かつ地道な作業でしたが、直接的でなくても役に立っているのだと思うと苦ではありませんでした。むしろ、どのように切ればより無駄なく切ることができるのかを考えたり、他のメンバーから学んだりして、楽しくできました！この作業を通して他の学年の子や先生方とも仲良くなることができ、ボランティアは人と人とを繋いでくれる素敵な活動だと改めて思いました。これからも頑張っていきたいです！！(布切りボランティア)
- 松の寮の壁に飾る季節の飾りのデザインを考えました。犬が海辺でスイカ割りをしている絵になりました。絵を一から書くのは苦手なので、インターネットで調べながら描きました。はじめ頼まれたときはどうしようかと思いましたが、お年寄りが好きな動物ランキングを調べたりして、楽しく取り組むことができました。しかし、実際に作る上でわかりにくいところや変

なところがあったら、どんどん変更してもらいたいです。(飾りづくり)

- セタのポスターは、飾りなどは既にできていたので、配置を考えて貼る作業でした。みんな
で意見を出しながら配置を考えて無事に完成させることができました。ピカチュウがいいアク
セントになっていたと思います。松の寮の方々に喜んでもらえるのが嬉しいです。初めてボラン
ティアに参加して、少し大変だったけど楽しかったです。今回は、松の寮に行けなかったの
でいつか行くことができたらいいなと思いました。(飾りづくり)
- 5日目ともなるとさすがにみんなミシンの使い方に慣れてきてスムーズに作業できるよう
になりました。糸が絡まったりして、最終日までハプニングはありましたが、最後の最後まで笑
って楽しく作業することができました。久しぶりにミシンを触ったので最初は緊張しましたが、
5日間共にしてきたミシンと会えなくなるのはなんだか寂しいです(笑)。私たちが一生懸命作
った雑巾をボロボロになるまで使ってくれたら嬉しいなと思います。(雑巾作り)



あいさつは笑顔で！今日もいいことあるかなあいさつ運動（生徒会主催）

都城市立高崎中学校

学校全体としてあいさつをしている生徒は多いが、元気に笑顔であいさつをすることには個人差がある。そこで、笑顔であいさつするきっかけを作り、そして、朝から元気になってもらいたいという生徒会執行部の思いから発案され、あいさつ運動が展開されました。

活動の内容としては、学校の玄関で、元気よくあいさつをして、くじをひいてもらい、そのくじを読み上げ、盛り上げます。くじの内容は「今日のラッキーカラーアイテム」「笑顔になる一言」などが書かれています。

（参加した生徒の声）

- 朝からたくさんの笑顔が生まれました。そして、僕たち生徒だけではなく、先生方も一緒にできるのでとてもいいと思います。でも、まだ、恥ずかしさがあって参加しない生徒もいるので、全校生徒がくじをひいてたくさんの人の笑顔が生まれるようにしたいです。
- みんなが笑顔でくじをひいてくれたのでよかったです。1年生も初めてだったけどくじに書いてあることを大きな声で読んでくれたのでよかったです。これからも生徒会役員が中心となって盛り上げていきたいです。
- この活動のねらいは、他学年との交流と、朝から生徒に楽しんでもらおうと考えました。生徒会役員が盛り上げ、それに生徒のみなさんも乗ってくれるので学校に笑顔が増えてよい雰囲気になったと思います。
- 自分自身も明るくなり、他の生徒にとっても楽しみなものなので、今後もたくさんしていきたいです。
- この活動は、朝から1日の活力を得ることができます。常に声を出し、盛り上げることで、自分も相手も元気になれます。体がだるい朝でも、元気をつけ1日を明るく過ごすことができます。元気が出れば、授業態度や生活態度も大きく変わると思います。この取組は学校全体を明るくできる素晴らしい取組だと思います。



誰かの一步がみんなの連帯感へ！運動場の草取りボランティア

都城市立高崎中学校

新型コロナウイルス拡大防止のため、臨時休業、愛校作業（生徒・保護者による環境美化活動）の中止、部活動の時間制限等により、運動場に雑草がたくさん生えた。この運動場を整備し、体育大会が実施できる環境を整えたいと、全校保健体育委員長、副委員長が発案して実施した。

7月のはじめは、3～4人で行っていた活動が3年生全体、そして全校生徒へと広がり、9月には3年生はほぼ全員、1、2年生は半数以上の生徒が参加した。

（参加した生徒等の声）

- 少ない人数で始めた草取りでしたが、1日1日やっていくごとに人数も増えていきました。私はそうやってみんなが協力してくれたことが嬉しかったし、同じ気持ちで行うことに意味があったと思います。ただ、草を取るというだけでなく、それ以上の思いを持ちながら行うことができました。どんどんきれいになっていく運動場を見てとてもやりがいを感じる事ができました。草取りボランティアが学級や全校生徒の雰囲気をよくしてくれたと思います。たくさんの方の行動があって体育大会を成功させることができました。協力してくれた全校生徒に感謝したいです。
- この草取りボランティアは、はじめは3年生の数人だけだったけど、どんどん増えていって毎日、全校生徒のほとんどが草取りに参加していて、こうやって全校が動いていくようになったのは、いつもどんなときでも全校保健体育委員長と副委員長が頑張っていたので、自分もがんばろうという気持ちになったからだと思います。全校生徒が草取りボランティアを通してひとつになれたおかげで体育大会が成功し、感動的なものになったと思います。これからも、全校生徒、学年、学級がひとつになることで受験も乗り越えられると思います。これからも頑張ります。
- たくさんの方が草取りボランティアに参加してくれて、こういった地道な作業でも皆が一生懸命にやったからこそ、最高の体育大会になったのだと思いました。
- 全校保健体育委員長と副委員長は体育大会の2カ月前から朝早く来て、草取りをしているところがすごいと思いました。
- 1年生から3年生の全員が参加していたので、本当にいい学校だなと実感しました。ボランティアが終わると、「別のボランティアがしたい」と思うようになりました。ボランティアをして、自分自身成長できたので、こういう活動を続けていきたいと思いました。



活動見直しのチャンス！先輩から後輩へ ボランティア部～エコキャップ回収講座～

都城聖ドミニコ学園高等学校

コロナ禍の中、地域に出たボランティア活動が少ないので、これまでの活動を見直して、さらに校内活動をより充実していくことにしました。そして、3年生から1・2年生へこれまでの活動を伝えることとしました。

ボランティア部1～3年生、そして一般生徒が参加し、8月20日(木)の午前9時から正午に、以下の内容で行いました。

<先輩からのプレゼン>

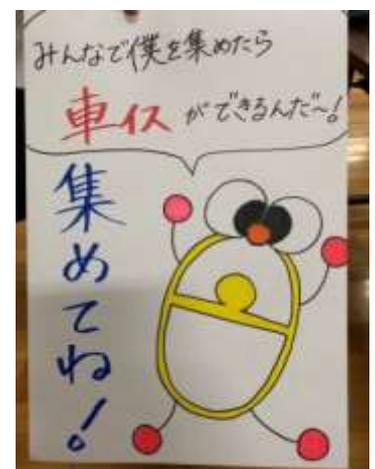
- ①今までの活動を振り返る。
- ②プルタブ、ペットボトルキャップについて

<グループワーク>

- ①ペットボトルキャップを回収するためには？
- ②効果的なポスターとは？

(参加した生徒等の声)

- ・ コロナ禍で活動できていなかったのですが、3年生からプレゼンテーションがあったことで、来年度へとイメージを膨らませることが出来ました。
- ・ 1年生から3年生まで混合のグループディスカッションを行い、緊張感がある中もアイスブレイキングなどを通して、しっかりとポスターを作り上げることが出来ました。
- ・ ペットボトルキャップやプルタブについて初めて知ったことがたくさんありました。
- ・ 一番印象に残ったのは、ワクチンを作るのに必要なキャップの数の事です。1000個以上必要なものもあり、たくさんの方が協力してもらう事の必要性を感じました。
- ・ グループワークでは、私が思いつかなかったアイデアが出て驚きました。色々な意見がでて、まとめることは難しかったけれど、1つにまとめて実際にポスターが完成したときは達成感を感じました。



自分たちが動けば世界が動く！SDGsの達成につながるボランティア活動

綾町立綾中学校

宮崎県内の中学校で唯一のユネスコスクールである綾中学校では、持続可能な社会の担い手として、生徒たちのボランティア活動を積極的に進めています。しかし、新型コロナウイルスの影響で、校外での様々な体験活動やボランティア活動も一時中断することとなりました。

今年度の生徒会のスローガンは「MOVE～綾中からつなぐ持続可能な世界へ～」となっており、生徒達自身が動き出すことで、世界を動かす、感動を与える、というメッセージが込められています。

そこで、SDGsと自分たちの生活を結びつけて考え、新しい生活様式の中で、自分達にできる活動を生徒達自身で考えました。授業でSDGsについて詳しく取り扱い、「わたしのSDGs実行宣言」カードを作ったり、全ての委員会活動の目標をSDGsとからめたりする等の工夫をしました。

【活動内容】

(1) ペットボトルキャップ回収

環境整美委員会が、これまで期間限定で行っていたペットボトルキャップ回収を、毎週水曜日に実施しました。朝登校したら、玄関に生徒会役員がおり、回収箱を準備しています。登校の「ついで」に行く「ついDAY」として定着しています。キャップ約860個で1人分のワクチンとなります。これはSDGs3番「全ての人に健康と福祉を」及び12番「つくる責任つかう責任」に繋がっています。

活動の流れは以下のとおりとしました。

- ① ペットボトルキャップ回収の意義を放送や掲示物で紹介します。自分達が回収したキャップが子どもたちへのワクチンとなって届けられることを知ります。
- ② 家庭にあるキャップを洗浄して持ってきます。
- ③ その日に集まったペットボトルキャップの数を放送で流します。
- ④ 掲示板に、関連するSDGsのアイコン、その日に集まった数、総量を掲示します。

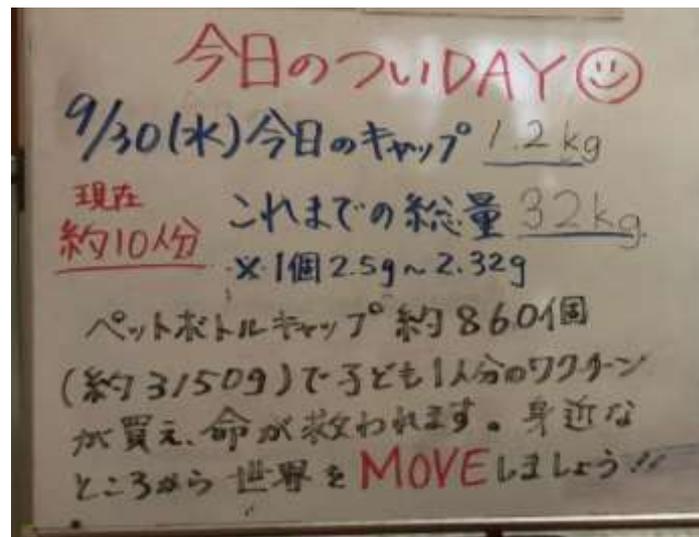
※ 体育大会ではプログラムでペットボトルキャップ回収についての紹介と協力を求め、保護者からのキャップを無人で回収しました。

今年度、綾中学校で回収されたペットボトルキャップ総重量は、60.5kgで、ポリオワクチン約15人分に相当します。

(参加した生徒等の声)

- ・ 自分たちの活動で世界の子どもたちにワクチンを届けることができると思うと嬉しい。
- ・ 860個という数で、やっと1人分と思うと大変だが、捨てればただのゴミなので、コツコツしていこうと思う。
- ・ ペットボトルキャップは、どの家庭にもいつもある物ではないが、もしあればゴミにするのではなく、リサイクルをしたり、学校に持ってきてたりしてもらい、誰かの役に立てて欲しい。

【ペットボトルキャップ回収ボランティアの様子】



(2) コンタクトレンズ空ケース回収

保体委員会で、eyecityが行っているecoプロジェクトに参加しました。使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収をする活動です。コンタクトレンズの空ケースの素材は、非常にリサイクルに適しており、様々なリサイクル製品、例えば、うちわ、ペン、服などに生まれ変わります。空ケースをごみとして燃やすのではなく、リサイクルを行うことで、二酸化炭素の排出量削減につながります。また、このサイクルの作業を障がい者の方々の自立活動として取り入れることで障がい者の自立・就労支援にもつながります。綾中学校では、10月から回収を開始して、12月時点で約2,000gのケースが集まっています。

この活動は、SDGsの3番「全ての人に健康と福祉を」、8番「働きがいも経済成長も」、13番「気候変動に具体的な対策を」につながります。

(3) 書き損じハガキの回収

生徒会本部で、書き損じはがき回収を行いました。これは、「書き損じはがき」「未使用の切手」を集めて、お金に変換し、教育の機会に恵まれない子どもたちに「学びの場」を世界に広げていく活動です。世界には教育を受けられない子供たちがまだ5,800万人もおり、約14,400円で12人が一ヶ月間学校に通うことができます。

生徒会では、冬休みに入る前に全校集会でプレゼンを行い、世界の子どもの教育事情を伝えるとともに、この活動の意義を広めました。その結果、冬休みが明けた後の約1週間で、14,510円分集めることができました。

この活動は、SDGs 4番「質の高い教育をみんなに」、12番「つくる責任つかう責任」にあてはまります。

(4) ユニクロ「届けよう！服のチカラプロジェクト」

SDGs達成の実践の1つとして、3年生を中心に、ユニクロの「届けよう！服のチカラプロジェクト」に参加しました。このプロジェクトは着なくなった子供服を回収し、難民の方々など世界中で服を本当に必要としている人々に届ける活動です。ポスターを作製して、町内に掲示したり、放送で呼びかけをしたりして、子供服を回収しました。回収した服は、仕分けをして、ユニクロ本部に送りました。今年度は、大型ダンボール16箱分集まりました。綾町から送られた服が世界のどこかで誰かの人生を少しだけ手助けします。

この活動はSDGs 10番「人や国の不平等をなくそう」、12番「つくる責任つかう責任」、17番「パートナーシップで目標を達成しよう」につながっています。

【手作りポスターを貼った箱・服の仕分けの様子】

